

校 園 名： 横 浜 国 立 大 学 教 育 人 間 科 学 部 附 属 横 浜 中 学 校

所在地：〒232-0061 神奈川県横浜市南区大岡2-31-3

電話番号：045-742-2281

記載日： 平成 28 年 5 月 20 日 記載者：井澤 克仁 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

生徒の自主・自律を重んじ、自由闊達で個性豊かな校風が受け継がれている。生徒は学習だけでなく部活動にも積極的に参加している。

【学級編制】

1クラス45名(帰国生徒5名を含む)、各学年3クラスの9クラス編制。

【学習活動】

これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力「リテラシー(問題解決力、学び続ける力、感じとる力、行動する力、熟考する力)」の育成を目指している。横浜国立大学、県立光陵高等学校との中・高・大連携により、「リテラシー」の育成を重視した教育展開を進めるための「かながわの中等教育の先導的モデル」づくりを推進している。

また、ICT教育を推進しており、一人一台のタブレットPC・全ての普通教室への電子黒板の配備など学習環境が充実している。

【学校環境】

鎌倉街道に面した校門を一步くぐると、外部の喧噪を忘れさせてくれるような静かな空間が広がっている。戦災を免れた建物は、横浜市内でも指折りの文化的建造物として評価されており、国の有形文化財に指定されている。

【生徒会・部活動】

自由闊達で個性豊かな校風は、生徒たちによる多様な活動にも表れている。生徒会、委員会、部活動は生徒自らの創意工夫によって運営され、生き生きとした活動が行われている。

【学校行事】

学年ごとに実施される修学旅行・校外学習や、全校で行われる体育祭・学芸祭などの各種行事では、生徒一人ひとりが主体となり、自由な発想のもとで意欲的に取り組んでいる。



貴校の卒業生の活躍状況について：

追跡調査は行っておりません。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

追跡調査は行っておりません。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

附属学校と県立高校による連携型中高一貫校の取組について

【連携の経緯】

平成19年6月に横浜国立大学教育人間科学部と神奈川県教育委員会の間で「中・高・大連携によるこれからの教育実践モデルの構築」の基本構想案について合意し、同年12月には実施計画が策定された。中高6年間を通して生徒一人ひとりが個性を生かし、特性を伸ばす教育の展開に資するために、中・高・大の連携により「かながわの中等教育の先導的モデルづくり」となる教育展開の実践研究を進めることとなった。

平成28年度で足かけ9年目を迎える。その間、平成21年には「中・高・大連携によるこれからの中等教育の先導となる教育実践モデルの構築に係る実践研究会」を設置し、本校及び光陵高校との連携型中高一貫校教育に関する実践研究に取り組んだ。その研究テーマは「中高一貫教育における『リテラシー』育成カリキュラムの作成」、「教育委員会と大学の連携及び中高生の相互交流の推進」、「入学者選抜の調整」などである。

これらの研究の成果や中・高・大実施計画の内容を踏まえて、本校と光陵高校は平成21年4月から「リテラシー」の育成の取組、教員合同研修会、研究発表会、「総合的な学習の時間」における連携、そして今年度で6年目となる「連携枠」における入学者選抜などの取組を行っている。

【連携の概要】

(1) 連携のねらいと方法

「かながわの中等教育の先導的モデル」となる教育実践の推進と、「リテラシー」を身に付けた次世代を担う人材の育成をねらいとしている。

本校及び光陵高校にとって「リテラシー」とは本来の読み書き能力や、ある分野における知識を表す言葉としてではなく、「これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力」として位置づけている。「リテラシー」の育成に当たり、「熟考する力」を基盤として「学び続ける力」、「感じとる力」及び「行動する力」を育み、それらを総合して、「問題解決力」を身に付けることができるよう、6年間を見通した教育課程編成や連携枠入試の実施等の教育活動を展開している。

(2) 連携によって期待される効果

附属横浜中、光陵高校の生徒の「確かな学力」の伸長、「リテラシー」の享受とともに、連携による「確かな学力の向上」「キャリア教育の展開」「大学の教育資源の活用」のモデルを提示することが附属横浜中学校、光陵高校、横浜国立大学に求められている。また、県内の中・高の「教育改善」に反映することが期待されている。更に、大学にとっては、中・高・大の継続研究の場としても期待されている。

(3) 合同研修会における教職員の連携

附属横浜小学校、附属横浜中学校、光陵高校の教員が合同で研修会をもち、講演会や教科別研究協議により、児童・生徒に育成しようとする力を再確認するとともに、教員の相互理解の促進を図っている。

(4) 「総合的な学習の時間」における連携～i-ハーベスト発表会～

本校の「総合的な学習の時間」で行われている「TOFY (Time of Fuzoku Yokohama)」は、生徒が「自ら見いだした課題について、見通しをもって多面的・多角的に考え調べると共に、得られた根拠を基にした判断、提言、思いを工夫して表現し、自己の生き方について考える」ことをめざして、1年で「TOFY 基礎」2年からは「TOFY 研究」に取り組んでいる。

一方、光陵高校の「総合的な学習の時間」である「KU (Koryo Universe)」は、「課題を自ら発見し、その解決に向けて主体的に探究・表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力等を身に付け、これからの社会に求められる『生きる力』を育む」ことをねらいとしている。

以上の「TOFY」「KU」の成果の発信は、平成22年度までは、各校で行われる発表会や、光陵高校の文化祭における「TOFY・KU 合同発表会」で行われてきたが、平成23年度からは「i-ハーベスト発表会」(横浜国立大学主催、神奈川県教育委員会共催)として毎年9月に開催し、今年で6回目を迎える。この「i-ハーベスト発表会」に参加することにより、上級生がどのような研究テーマに取り組み、学んでいるかを知り、自分の進路や職業を考える契機となっている。「リテラシー」の育成に大きな効果が期待できる。

(5) キャリア教育による連携

本校の「総合的な学習の時間」は「TOFY」に加えて「CAN (Career Aim Navigation)」も柱の一つである。その中で、光陵高校との授業交流等の進路体験学習を行っている。また、光陵高校も横浜国立大学との間で職業観の育成を図ることを目的とした高大連携活動に取り組んでいる。

(6) 連携枠の入学者選抜

光陵高校は、附属横浜中学校においてリテラシー育成を重視した学習に積極的に取り組み、一定の成果を上げ、附属横浜中学校長の推薦を得た者から、1クラスを上限とした調査書や学力検査によらない独自の入試を行っている。

(7) 生徒の交流

部活動の合同練習や光陵高校の文化祭や音楽祭への参加を行っている。

【おわりに】

教育が多様化する中、国立大学と教育委員会は、より密接に連携を取っていかなければならないが、本連携もさらに進化させた「先導的モデル」として、これまでの取組を検証しつつ、長期的な展望を持って、円滑に推進していきたいと考える。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

【国の拠点校】・・・大学・学部の持つ人的資源を活用しつつ、公立学校で実施するものとは異なる先導的・実験的な取り組みを中長期的視点から実施する。

- ・平成14年度「次世代ITを活用した未来型教育研究開発事業」実施校（文部科学省・総務省）
- ・平成23年度～25年度「学びのイノベーション事業」（文部科学省）
- ・平成23年度～27年度「フューチャースクール推進事業」指定校（総務省）
- ・平成26年度「ICTを活用した教育に資する実証事業」実施校（文部科学省）

【地域のモデル校】・・・地域の教育界との連携協力の下に、地域の教育のモデル校として、地域の教員の資質・能力の向上、教育活動の推進に寄与する。

○講演・出前事業等の依頼

「メディア教育指導者講座」（国立教育政策研究所）

「eスクールステップキャンプ模擬授業」（文部科学省）

「ICT等の講演」（市町村教育委員会・中学校）

○視察依頼

文部科学省、総務省、県・県内市教育委員会、県内中学校、他県教育センター
他県市町村教育委員会、他県市中学校長会 海外（マレーシア） 等

○研究発表会で研究授業を公開

- ・平成28年2月19日（金）、20日（土）、本校で「新しい時代に必要となる資質・能力の育成への試み～「知識・技能」の構築へ向かう授業の工夫～」をテーマに、全国から教育関係者ら約1100人が参加した。（毎年約1000人以上の参加）



○書籍の発行（学事出版）

- ・「知識・技能」の構築をめざす授業事例集 2016/2/29
- ・「見通す・振り返る」学習活動を重視した授業事例集 2015/3/6
- ・言語活動を通して学習意欲を高める授業事例集 2014/3/3
- ・新たなる学びへの意欲を生む授業事例集 2013/3/5
- ・言語活動の質を高める授業事例集 2012/3/9
- ・思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価 2011/3/10

